

- (1) 実習で苦労したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか  
 まずはじめの1週間は、児童の名前を覚えることや、いきなりはじまる授業の準備でとても大変でした。また、特別支援教育とちがって、人数の多さや時間の流れるはやさにはじめのうちはなかなか慣れませんでした。しかし、2週間目になると一人ひとりの児童と会話ができ、授業も回数が増えていくうちにたくさんの方に気づけるようになりました。特に苦労したことはやはり授業で、児童の言葉をひきだしていくこと、一人の発言から他の児童へとつなげていくことなど授業の中での言葉かけは最後まで私の課題でした。大変なことがたくさんありましたが、何より児童と一緒に楽しむという気持ちをおぼえずに、児童と過ごす時間を大切にしようという気持ちで行ったことで、のりこえられたのだと思います。
- (2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

初めて分かったことは、授業の難しさ、そして大切さです。教員の方に教えられたのは、授業の中でこそ子どもとの関係づくりができるのであり、認めてあげる場をつくるのが大切だということです。休み時間や給食時間ももちろん大切ですが、授業もそのような意味で大切だということを知りました。嬉しかったことは、はじめは自分から話しかけにこない子が、話しかけるようになってくれたことや、何気なく言ったことをずっと覚えてくれたこと、授業の後に楽しかったよと声をかけてくれたことなど、一生懸命取り組んだことで児童がかえしてくれたことです。他にもたくさん嬉しかったことがあります。

- (3) 5年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

5年生にもなると、クラスの中で授業中に発言する子どもが決まってきたり、勉強の差がでてきたり、自分の意思をしっかりと持つようになってきていたり、低学年に比べて教師の言葉かけをよく考え、一人ひとりの児童に合わせていく必要があると思います。授業は特に、予想していないような答えが返ってきたりすることがよくあったので、自分自身が内容をよく理解していないと混乱してしまうと思います。授業ははやい人で2日目からはじまるので、教科書は一度目を通しておいた方がよいです。私の学年だからということもあると思いますが、想像していたより活発で、元気がよく、よく遊ぶ子どもたちだったので、休み時間はいっぱい遊んで、授業がはじまったらきりかえるといったようにメリハリが大切だと思いました。

- (1) 実習で苦勞したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか

授業での失敗について。時間が余ったり、話がふくらまなくて盛り上がりがないことがありました。その時は、自分が教える單元について、納得していない所があったり、面白くないで自分自身が感じている時だと思っています。  
 授業をする前に、まず自分がその単元の面白さを見つけてその單元を好きになると、授業もうまくいくと思います。  
 先生が楽しいと児童も楽しいはずですよ。

- (2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

特支は3年目の小学校実習の前に1回もしくは2回すでに実習にいらしています。気持ち的には他の実習生よりも落ちついてのぞめると思っています。

授業が終わったあとに児童から「面白かった、楽しかった」と言われるのがうれしかったです。次の授業へのエネルギーになります。がんばってください。苦勞した分だけ、子どもたちは応えてくれると思います。

- (3) 5年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

5年生は精神的に大人に近づいてきています。特に女子はそうです。気をつけましょう。

先生がつまらなそうにしては何も楽しくないです。先生のことを児童たちはよく見ています。

一生懸命がれば、一生懸命応えてくれます。

先生が楽しいと児童も楽しいです。

一生懸命楽しませよう!

- (1) 実習で苦労したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか  
一番苦労したことは、授業の進行、そして  
2 回目の授業づくりです。

6 年生に手ごねると、自然に流すということが  
通用しなくなり、教師の思いえがいている方向に  
誘導するということが難しくなります。

一人一人の言葉を出来るだけ拾い、それに対応するということが  
とても重要だと思いました。

辛いときは、周りの人に弱音だけはかかせてもらい、スッキリして  
から作業にとりかかっていました。

- (2) 実習に行つて初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

附属小学校の児童は実習生慣れしている  
ということもあり、授業に協力をしてくれたり、  
あたたかく迎え入れてくれたように感じました。

緊張しているはずなのに、どこか安心できている  
自分が出て、とても嬉しかったです。

- (3) 6 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

6 年は、他の学年と違ってただ可愛いというだけではなく、  
やはり、思春期ということもあり、対人関係にも  
敏感になっている時期でありました。

そのため、いくら実習生(教師)とはいえども、  
一人一人の様子をしっかりと観察した上で接することが  
大切であると思いました。

よけいに“フー”と仲に入ってしまつて逆に距離を  
近づけるどころか遠ざかってしまうこともあるかと感じました。